

かわにし夢・未来フォーラム

昨年度から市が検討を進めている地域分権制度や、参画と協働のまちづくりについての理解を深め、その気運を高めるため、今回、『かわにし夢・未来フォーラム』を開催しました。

今回のフォーラムでは、高校3年生の塩見友梨さんが司会を務め、山本としえさんが0歳のお子さんと一緒にパネリストとして登場するなど、多様な世代の方に出演いただきました。

日 時：2012年9月15日（土） 13:30～16:00

会 場：アステホール（アステ川西6階）

参加者：市民、各団体関係者、大学生など約300人

■当日のプログラム

- 開 会、市長あいさつ
- 基調講演1（講師：山崎亮さん）
『コミュニティデザインについて～人がつながるしくみづくり～』
- 基調講演2（講師：中川幾郎さん）
『地域自治のこれまで これから』
- パネルディスカッション
『人がつながるこれからの地域づくり』
- 市長コメント
- 閉 会



■大塩市長あいさつ

大塩民生川西市長から、開会にあたりあいさつがありました。経済危機・少子高齢化・社会保障問題などが進行する中で、これからの川西市をどのようなまちにしていこうかという問いかけや、持続可能な地域をつくるためには、川西市に暮らす人々が協力して、絆やつながり、縁を大切にしていかなければならないという話がありました。



■基調講演1 『コミュニティデザインについて～人がつながるしくみづくり～』

山崎亮さんには、「人口増加社会」から「人口減少社会」へと時代が変わる中で、さまざまな課題を誰が、どのように解決していくのかということについてご講演いただきました。自治会などの地縁型組織とNPOやボランティアなどのテーマ型組織が一緒になって地域のために動くことが重要ではないかというお話がありました。

また、今後の川西市における取り組みの参考事例として、東京都墨田区と島根県海士町のまちづくりが紹介されました。

最後に、「地域を元気にするような楽しいことを見つけ、楽しいことをやればやるほど地域のためになる。つまり、地域で活動する人口が増えればまちは生き生きしてくる。川西市もその可能性が十分にある」とメッセージをいただきました。



studio-L 代表・京都造形芸術大学教授
山崎亮さん

■基調講演2 『地域自治のこれまで これから』



帝塚山大学大学院教授
中川幾郎さん

中川幾郎さんの講演では、日本の経済構造の変化や政府の財政難などから、現在、地方分権が進んでいるが、個人、家族、地域、行政のそれぞれがそれぞれにしかできないことをやるということが本来の役割分担であり、「地域でしかできないこと」を考えていくべきだというお話がありました。

また、現在の地域コミュニティが弱体化している要因として、地域の人々の顔が見える「面識社会」を避ける傾向にあるが、「面識社会」の回復こそが今大切にすべきことであり、地域について一番よく知っている自治会が最大の力を発揮することがポイントの一つであるというお話がありました。

加えて、自治会などについては、世代別・性別、課題別の代表性を担保することが重要であり、たとえば、赤ちゃんを連れた女性が参加しやすいような会議の場づくりなどが必要であるという助言をいただきました。

■パネルディスカッション『人がつながるこれからの地域づくり』

- パネリスト：武内秀男さん（清和台地区コミュニティ推進協議会会長）
真鍋由香里さん（前川西市PTA連合会会長）
山本としえさん（働くママの子育てサークル in 川西代表）
山崎亮さん（studio-L代表、京都造形芸術大学教授）
- コーディネーター：中川幾郎さん（帝塚山大学大学院教授）



©川西市 2008

フォーラムの後半は『人がつながるこれからの地域づくり』というテーマでパネルディスカッションがありました。同じ川西市内で活動するパネリストの武内さん、真鍋さん、山本さんに、それぞれの活動内容に応じた視点から議論いただきました。

市内で活動している地縁団体とテーマ型団体の連携に関しては、現在はそれほど活発には行われてはいないものの、今後は連携をとる必要があるという共通認識がありました。その際に重要となるのは、「楽しい」というキーワード。つまり、互いの活動を知り、楽しいという気持ちを共有することです。

また、市の職員が果たすべき役割についての議論も行われました。共通して挙げられたことは、連携や活動のサポートをしてほしいということでした。市の職員に求められるスキルはさまざまであり、果たすべき役割も多く、プロとして活動していくことを期待されていました。

約60分間のパネルディスカッションでしたが、地域をつくることの重要性を市民一人ひとりが考えさせられるとても充実した内容となりました。



フォーラムの最後に大塩市長から、「川西のまちが市民一人ひとりの力で元気になること、そして、そのサポートを行政が全面的にする決意がある」というコメントがありました。